保育園等において予防すべき感染症と出席停止期間の基準

高岡市子ども・子育て課（令和7年4月）

※印 は、医師の登園許可（園にある登園許可書に証明）が必要です。園のホームページよりダウンロードできます。
◎印 は、医師による登園許可書は必要ありませんが、登園再開時に保護者記入の治ゆ報告書の提出が必要です。

番号	病名	潜伏期間	主な症状	感染経路	登園基準	予防接種・備考
1 ※	麻しん （はしか）	8～12日	発熱、咳、鼻水、目やに、頬の内側に白い斑点状コプリック斑ができる。 その後、顔や頸部に発疹。	空気感染 飛沫感染 接触感染	解熱後３日経過していること	麻しん・風しん混合ワクチン 定期接種:2回 1期　1歳から2歳に至るまでの間 2期　年長児
2 ※	風しん （三日はしか）	16～18日	発熱と同時に顔に発疹。耳の後ろ・首・後頭部などのリンパ節の腫れ。	飛沫感染 接触感染	発疹が消えていること	
3 ※	百日咳	7～10日	感冒様症状から始まる。次第に咳が強くなる。1～2週で特有の咳。咳は夜間に悪化する。乳児期早期では無呼吸発作からチアノーゼ、痙攣、呼吸停止となることがある。	飛沫感染 接触感染	５日間の抗菌性物質製剤(=抗生剤）による治療終了か、特有の咳が消え、全身状態が良好であること	４種(･5種)混合ﾜｸﾁﾝ(ｼﾞﾌﾃﾘｱ・百日せき・ﾎﾟﾘｵ・破傷風(･Hib)) 定期接種:初回3回　追加1回　計4回 生後3か月から7歳6か月に至るまでの間
4 ※	水痘 （水ぼうそう）	14～16日	水疱のある発疹が全身に次々と出る。痂皮化し先に出たものから治っていく。	空気感染 飛沫感染 接触感染	すべての発疹が痂皮(かさぶた)化していること	水痘ワクチン 定期接種：2回　1歳から3歳に至るまでの間
5 ※	流行性耳下腺炎 （おたふくかぜ）	16～18日	発熱。まず片側ないし両側のあごの後ろが大きく腫れて痛む。食欲減退、嚥下困難。	飛沫感染 接触感染	腫れが出た後5日を経過し、かつ全身状態が良好であること	おたふくかぜワクチン 任意接種：2回　1歳以上
6 ※	咽頭結膜熱 （プール熱）	2～14日	発熱、のどの痛み、結膜の充血、食欲不振が3～7日続く。涙が多くなる。	飛沫感染 接触感染	主症状消失後2日経過していること	夏季に流行が見られるが、一年を通して罹患する。
7 ※	流行性角結膜炎 （はやり目）	2～14日	涙、目やに、異物感、結膜充血。	飛沫感染 接触感染	結膜炎の症状が消失していること	極めて伝染力が強い。 タオル等の共用をしない。
8 ※	結核	3か月～数10年	慢性的な発熱、咳、疲れやすさ、食欲不振。症状が進行すると呼吸困難、チアノーゼ	空気感染	医師により感染のおそれがないと認められていること	BCGワクチン 定期接種：1回 生後5か月～生後８か月に至るまでの間
9 ※	腸管出血性大腸菌感染症（O157等）	10時間～6日 0157は3～4日	腹痛、血便、水様下痢便、嘔吐、発熱、脱水症状。	経口感染 接触感染		
10 ※	急性出血性結膜炎	1～3日	急性結膜炎で結膜出血が特徴	飛沫感染 接触感染		ウィルスは一カ月程度便中に排泄されるので手洗いの励行。
11 ※	髄膜炎菌性髄膜炎	4日以内	頭痛、発熱、嘔吐、痙攣、意識障害	飛沫感染 接触感染		髄膜炎菌ワクチン 任意接種：1回　2歳以上
12 ◎	インフルエンザ	1～4日	突然の高熱が3～4日間続く。全身症状（全身倦怠感、関節痛、筋肉痛、頭痛）を伴う。咽頭痛、鼻汁、咳嗽	飛沫感染 接触感染	発症後5日を経過し、かつ解熱した後3日を経過していること	季節性インフルエンザワクチン 任意接種：2回 生後6か月から接種可能
13 ◎	新型コロナウイルス	1～14日	発熱、咳、全身倦怠感、頭痛、 下痢、結膜炎、嗅覚障害、味覚障害等。 無症状の場合もあり。	飛沫感染 接触感染 ｴｱﾛｿﾞﾙ感染	発症後5日を経過し、かつ症状軽快後1日を経過していること	コロナワクチン 任意接種 生後6か月から接種可能
★インフルエンザ及び新型コロナウイルスの登園基準については下記図参照						
14	溶連菌感染症	2～5日	発熱、咽頭痛を発症、舌の腫れ、全身に鮮紅色の発疹等。	飛沫感染 接触感染 経口感染	抗菌薬の内服開始後24時間以上経過し、全身状態が良好であること	★抗菌薬服用開始日の翌日は、家で一日様子を見てください。
15	伝染性膿痂症（とびひ）	2日～10日	虫ささされ、湿疹を掻いた後、水疱のある湿疹ができる。かゆみを伴う。	接触感染	病変部を外用薬で処置し、ガーゼ等で覆ってあること	湿潤部位はガーゼで覆い、他の児が接触しないようにする。
16	ウイルス性胃腸炎	（ロタウィルス） 1～3日 （ノロウィルス） 12～48時間	下痢、嘔吐、軽度の発熱。 ロタウィルス(冬から春にかけて流行) ノロウイルス(秋から冬にかけて流行)	経口感染 接触感染 食品媒介感染 空気･飛沫感染	発熱や下痢や嘔吐がなく、普段の食事ができること	ロタウイルスワクチン 定期接種：生後6週から生後24～32週までに完了 排便後の便（オムツ）、 嘔吐物の処理や手洗いの徹底。
17	マイコプラズマ肺炎	14～21日	咳、発熱。解熱後も咳が３～4週間持続する。	飛沫感染	発熱・激しい咳が治まっていること	
18	突発性発しん	9～10日	3日間程度の高熱。解熱後体幹部を中心に鮮紅色の発疹が出る。	飛沫感染 接触感染 経口感染	解熱後1日以上経過し、全身状態が良好であること	生後6か月から2歳によくみられる。
19	手足口病	3～6日	口内、手のひら、足の裏、臀部、膝に小さな水疱。発熱を伴う。	飛沫感染 接触感染 経口感染	発熱がなく（解熱後1日以上経過し）、普段の食事ができること	無菌性髄膜炎の恐れがあるので、頭痛、嘔吐に要注意。
20	伝染性紅斑 （りんご病）	4～14日	軽い風邪症状後両頬に紅色斑や四肢に網目状の発疹。痒みほてり。	飛沫感染	全身状態が良好であること	発疹が出た時ウィルスの排出は、ほとんど終わっている。
21	ヘルパンギーナ	3～6日	発熱。口の中に小さな水疱、潰瘍ができ、痛い。	飛沫感染 接触感染 経口感染	発熱がなく（解熱後1日以上経過し）普段の食事ができること	春から夏にかけて流行。排泄物の取り扱いに注意。
22	ＲＳウィルス感染症	4～6日	発熱、鼻汁、咳嗽、喘鳴、呼吸困難 乳児(6か月未満)は重症な呼吸器症状を生じる。	飛沫感染 接触感染	呼吸器症状が消失し、全身状態が良好であること	非常に感染力が強いので施設内感染に注意が必要。（特に０歳児)排泄物の取り扱いに注意。
23	帯状疱疹	不定	神経痛、刺激感を訴える、小児では掻痒を訴える場合が多い。 多数の水泡(水ぶくれ)、紅斑	接触感染	全ての発しんが痂皮(かさぶた)化していること	水痘の免疫のない児が帯状発疹の患者に接触すると水痘を発症する可能性あり。
24	アタマジラミ	10～30日 (卵は約7日で孵化)	耳の後ろ、後頭部を痒がる。卵は髪の生え際、耳の後ろ、後頭部に産みつけられる。一見ふけのようだが、払っても落ちないのが特徴。	接触感染 寝具等の共用	駆除を開始していること	頭を近づけ遊ぶ時や午睡時など伝播しやすい。家族内でも伝播するので家族同時に駆除することが重要。

参考　保育所における感染症対策ガイドライン（こども家庭庁）

★インフルエンザの登園基準

丸一日平熱(37℃未満)だった日を
解熱日1日目とします。

★新型コロナウイルス感染症について（令和7年4月現在）

症状が軽快した日を０日目とします。

※無症状の場合は検体採取日を０日目として、５日を経過すること。